

第4章 子どもの読書活動推進のための方策

1. 家庭における子どもの読書活動の推進

【現状と課題】

子どもが幼いころから読書習慣を身につけていく上で、家庭は最も身近で大切な場所であることから、子どもの発達に応じた読み聞かせなど、子どもが生活の中で本に親しむ機会を提供することが重要です。

しかし、本市においても核家族世帯や共働き世帯が増加する等の子どもを取り巻く環境の変化や、スマートフォンやゲーム、インターネット等の情報メディアの発展・多様化が影響し、家庭での読書離れが進む傾向が見られます。

そのため、本市では、絵本の読み聞かせの大切さの啓発や絵本に親しむ機会等の情報提供をすることにより、家庭での家族ぐるみの読書を推進しています。

今後も子どもの本への関心を高め、日常的に読書を楽しむことができるよう、家庭、地域、学校、図書館等が連携を図りながら、家庭における子どもの読書活動を支援していく必要があります。

【施策の方向】

- 絵本の読み聞かせの大切さの啓発や絵本に親しむ機会等の情報提供を行うことにより、家庭での家族ぐるみの読書活動を推進します。
- 市の各課や各種関係団体等の支援組織が協働し、地域で市民の実施する子どもの読書活動を推進する取組について支援します。

【主な事業】

<乳幼児>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
絵本 de うちどくサポート 広場 (家庭教育サポート事業)	1歳6か月の乳幼児健診の待ち時間を活用して、「家庭読書(家読)」 ⁷ 啓発チラシの配布や啓発DVDの上映、絵本の展示、図書館司書による読書相談や絵本の読み聞かせ(月1回)等を行い、親子で絵本に親しんでもらう機会を提供します。	生涯学習課 (子育て相談センター) (図書館)
乳幼児健診における絵本 展示	2歳6か月および3歳6か月の乳幼児健診の待ち時間を活用し、草津市立図書館から借用した絵本を展示して、絵本の楽しさを親子で体験してもらう機会を提供します。	子育て相談センター (図書館)
ブックスタート事業	概ね1歳未満の乳児のいる家庭を保育士が訪問し、育児相談・情報提供を行う「すこやか訪問」実施時に、絵本の読み聞かせと絵本のプレゼントを行います。 乳児の反応を見ながら、絵本を開く楽しさを体験してもらい、親子のふれあいのきっかけにつなげます。	子育て相談センター
つどいの広場事業	概ね3歳未満の子育て家庭が集い、交流するための広場の開設とスタッフによる子育て相談対応を実施します。 その一環として毎日2回、絵本や紙芝居の読み聞かせを実施し、様々な絵本との出会いの場にします。	子育て相談センター



絵本 de うちどくサポート広場



ブックスタート事業

7 家庭読書(家読) … 家族で読書の習慣を共有し、また、本を媒介として家族のコミュニケーションを深めること

<小中学生>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
家庭教育サポート事業 (学校)	小学生の保護者を対象に図書館司書等の講話を行い、子どもが本好きになるきっかけを作ります。また、家庭での読み聞かせや読書を通じて、子どもとふれあう時間の大切さについて保護者への理解を深め、家庭教育の充実を図ります。	生涯学習課 (各小学校)
家庭教育学習事業費補助	単位PTAが実施する家庭教育に関する大会や研修会、体験学習、講習会等の学習事業に対して補助を実施します。	生涯学習課 (各小学校PTA)
小中学校教材設備充実費	義務教育教材備品等の整備充実により、小中学校の教育環境を向上させます。	教育総務課
図書購入費(図書のみ)	図書館資料の充実を図ることで、すべての子どもたちの利用に比べられるよう幅広い資料収集に努め、読書環境を整備します。	図書館



家庭教育学習講座 (家庭教育サポート事業)

2. 地域における子どもの読書活動の推進

(1) 図書館における子どもの読書活動の推進

【現状と課題】

本市は市立図書館、南草津図書館の2館を設置しています。また、移動図書館車（わかかさ号）の運行をはじめとする、地域に密着した「貸出サービス」、「児童サービス」、「全域サービス」を運営方針として行ってきました。

第2次草津市子ども読書活動推進計画に掲げた①資料の充実、②図書館PRと利用者の拡大、③子どもと本をつなぐ事業の充実、④年齢に応じた子ども向けサービスの充実・強化、⑤子どもの本に関する情報提供の充実、⑥学校、幼稚園、保育所との連携、⑦関係団体・ボランティア団体の活動支援、⑧図書館職員の能力向上について取り組んできました。また、「草津市の図書館運営計画（前期計画）2015-2020」に掲げる子ども読書に関わる施策においても事業内容の充実に努めました。

平成30（2018）年度の蔵書数は、約53万6千冊、うち児童書数は、12万5千冊で全体の23.3%にあたり、児童書の貸出冊数は年間41万冊を超え、いずれの数値も第2次草津市子ども読書活動推進計画に掲載した平成25（2013）年度実績数値を上回っています。第2次草津市子ども読書活動推進計画の5年間においては、特に、乳幼児とその保護者対象の「木曜おはなしのじかん」の両館毎月開催や、平成27（2015）年度から実施したYA（中高生）サービスの充実による、両館コーナー設置や中高生向きのおすすめ本や本の紹介を書いたPOPの展示など、赤ちゃんから高校生まで、年齢や対象別事業を充実させてきました。また平成25（2013）年度から開始した巡回図書事業「ブックん」や、小・中学校への「出張ブックトーク⁸」などの学校連携事業の強化に加えて、生涯学習課・子育て相談センターとの連携事業として実施している乳幼児健診（1歳6ヶ月）での読書相談や絵本の読み聞かせ、アーバンデザインセンターびわこ・くさつ（UDCBK）やミナクサ☆ひろばとの連携事業など他課・他機関との連携事業の充実も図ってきました。さらに、専門的知識を持った児童サービス担当司書を配置し、研修を行うことで、児童サービスに関する専門的知識や技能を磨き、育成するための継続した研修による司書の資質向上も必要不可欠です。

8 ブックトーク … 一つのテーマにそって幅広く、何冊かの本を順序立てて紹介する手法
司書が学校へ訪問し、実施するブックトークを「出張ブックトーク」と言う。

このような取組の結果、貸出冊数に占める児童書の割合は、平成20（2008）年度の26.6%から徐々に上昇し、平成25（2013）年度には31.1%、平成30（2018）年度には36.0%となりました。この数値は全国平均30%（平成30年度文部科学省社会教育調査）⁹よりも高く、家庭、地域、学校、図書館等の連携を推進してきたことによる成果であると考えられます。

今計画では、現状のサービスを維持しながら、多様な子どもたちに配慮した読書活動の推進にも取り組み、未来を担う子どもの育成を推進し、子どもの成長に役立つ図書館の充実に努めます。

【施策の方向】

- 年齢に応じた子ども向けサービスの実施による、子どもと本をつなぐ事業の充実を図り、子どもの感性や人間性を育む読書活動の支援に努めます。
- 「木曜おはなしのじかん」など子育て世代への読書環境の啓発と支援、フェイスブック・ぽかぽかタウンでの行事情報発信等、子育てを応援し、子どもの交流機会に関する情報提供と支援を行います。
- 利用増加に伴う複本資料の充実と買い替えを行います。また、学校連携や活動支援用図書との補充と、子ども食堂等図書館への来館困難者にかかる読書環境整備のための資料の充実を図ります。
- 図書館の持つ専門性や経験を活かした学校、幼稚園、保育所（園）、こども園での読書活動を充実させるため、各校園所への支援や他課・他機関との連携強化による草津市の読書環境整備を行います。

9 平成30年度文部科学省社会教育調査 … 統計法に基づく基幹統計調査（基幹統計である社会教育統計を作成するための調査）として、社会教育行政に必要な社会教育に関する基本的な事項を明らかにすることを目的として実施

【主な事業】

① 子どもと本をつなぐ事業の充実

＜乳幼児＞

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
木曜おはなしのじかん	手遊びや歌遊び等親子のスキンシップを中心に、絵本の読み聞かせや選び方のアドバイス等も行う。	図書館
キッズデー	「小さな子どもを連れて来館するのは気兼ねしてしまう」との声をを受けて設けた「子どもが主役」の日。 館内に BGM、子ども向けイベント等を実施。	図書館

＜幼児および小学生＞

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
おはなしのじかん	絵本の読み聞かせや紙芝居、手遊びなどを実施し、子どもの豊かな読書体験等を育みます。	図書館
おはなし会	図書ボランティアの協力のもと、「ストーリーテリング」 ¹⁰ や絵本の読み聞かせ・大型紙芝居・手遊びなどを行い、子どもの読書の動機づけと図書館利用を促します。	図書館 (図書ボランティア) (幼児課)
こどものつどい	図書ボランティアや外部人形劇団による人形劇等の実演。夏・冬・春休み前に(年3回)開催することで、図書館利用を促します。	図書館 (読書ボランティア)
絵本のひろば事業	図書館会議室を開放して、親子・家族で自由に絵本を選んで読んでもらう空間(段ボール書架全面に絵本の表紙見せ約200冊程度)をつくり、絵本の世界を体験してもらうことで、子どもと本をつなぐ事業として充実を図ります。	図書館
クイズラリー	本に関するクイズに答えることで図書館や本について学び、図書館・読書への動機づけと図書館利用を促します。	図書館
キッズデー (再掲)	「小さな子どもを連れて来館するのは気兼ねしてしまう」との声をを受けて設けた「子どもが主役」の日。 館内に BGM、子ども向けイベント等を実施	図書館

10 「ストーリーテリング」…語り手が昔話などの物語を覚えて語り聞かせること。子どもと本を結びつける手だてのひとつ。別名「素話」



こどものついで



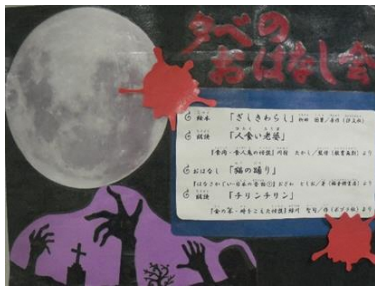
絵本のひろば（本館）



夏休み！図書館クイズラリー
（南館）

<小中学生>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
タベ(夜)のおはなし会	通常のおはなし会では物足りない小学高学年以上を対象に怖いおはなしや紙芝居・人形劇などを行います。	図書館
ブックン (巡回図書事業)	市内の全14小学校と連携し、4種類14セット約2,200冊の本を学期毎に巡回配本し、子どもたちがたくさん本と出会ってもらえる契機とします。	図書館 (小学校)
出張ブックトーク	小学高学年から中学生を対象に司書が学校へ訪問し、「ブックトーク」を実施。読書領域の拡大と読書要求の掘り起しを行います。	図書館 (各小中学校)



タベのおはなし会（本館）



夜のおはなし会（南館）



出張ブックトーク



職場体験

<中学生から18歳まで>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
出張ブックトーク (再掲)	小学高学年から中学生を対象に司書が学校へ訪問し、「ブックトーク」を実施。読書領域の拡大と読書要求の掘り起しを行います。	図書館 (各小中学校)
高校連携	市内高校生との交流会の開催やおすすめ図書紹介 POP の交換を実施。高校生の図書館利用促進につなげます。	図書館 (各高校)



草津市立図書館高校連携交流会

② 子どもの本に関する情報提供の充実と図書館PRによる利用者の拡大

<全般>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
子どもの本の教室	主に乳幼児とその保護者を対象とした講演会や親子で読書や絵本に関連するワークショップを実施します。	図書館 (読書ボランティア)
子ども読書講演会	子どもと家庭の読書活動推進と図書館利用を促すため、児童文学作家等の講演会を実施します。	図書館 (読書ボランティア)
こどものしゅうへん	おすすめ本の紹介や行事・新着図書情報を掲載した「こどものしゅうへん」を毎月発行し、ホームページにアップするなど、情報提供の充実を図ります。	図書館
レファレンス機能の充実	子どもの本に関するレファレンス（調査・相談）機能を充実させ、質問や相談に応えます。	図書館



子どもの本の教室（南館）



こどものしゅうへん

③ 施設、設備および蔵書の充実と環境整備の推進

<全般>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
図書購入費(図書のみ)	図書館において、既存資料の整理を行うとともに、児童書のさらなる充実を図り、読書環境の整備に努めます。また、障害のある子どもたちや外国人児童の利用にも応えられるよう、幅広い資料収集に努めます。	図書館

④ 子どもの読書活動に関わる人材の充実

<全般>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
講座および研修会等への図書館司書の講師派遣	他課、他機関との連携により、司書の専門性を活かした、絵本の読み聞かせ講座やブックトーク研修等の講師を務めます。	図書館 (幼稚園・保育所・こども園) (各小中学校) (庁内関係課)
学校図書館ボランティア交流会	学校図書館や読書活動の運営にボランティア等がかかわっている方々を対象として、各学期に1回、年3回の交流会を実施します。日頃の活動に役立つスキルアップ講座を計画したり、他の校舎所で活動する方々と意見交流の場を設定したりするなどして、子どもの読書活動の推進に携わる方々の資質の向上と連携を図ります。	学校政策推進課 (図書館) (学校図書館ボランティア)
関係団体・ボランティア団体の活動支援事業	図書館関係団体や子どもの読書に関わるボランティア団体と連携・協力し、おはなし会、点訳・音訳ボランティア、学校図書館ボランティア等の活動内容の充実や発展のために支援・協力を行います。	図書館 (図書館関係団体) (学校図書館ボランティア)



学校図書館ボランティア交流会

(2) その他公共施設における子どもの読書活動の推進

【現状と課題】

子どもにとって、あらゆる機会を通じて本に接することは、読書の楽しさを知る上で大切です。本市では、図書館の他にも草津アミカホールやつどいの広場で、ブックトークコンサートや絵本・紙芝居の読み聞かせを実施する等、市内各施設がそれぞれの特色を生かしながら、読書に関連した催しを行っています。

また、いくつかの地域まちづくりセンターにおいては、地域の読書ボランティアや子育てサークルによる本の読み聞かせ等、子どもの読書活動への支援が行われています。

【施策の方向】

- 読書活動の推進に関する事業を行う事業者と連携・協力すると共に、公の施設の指定管理者等の自主的な取組を推進します。
- 地域ニーズに応じた連携・協力を行うと共に、ボランティア等との連携による本の読み聞かせや読書活動の支援に努めます。

【主な事業】

① 子どもと保護者への読書活動の場の提供

<全般>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
つどいの広場事業	おおむね3歳未満の子育て家庭が集い、交流するための広場の開設とスタッフによる子育て相談対応を実施します。 その一環として毎日2回（11時・14時）、絵本や紙芝居の読み聞かせを実施し、様々な絵本との出会いの場とします。	子育て相談センター
子育て支援拠点施設運営事業	小学校3年生までの子育て家庭が集い、交流するための広場の開設とスタッフによる子育て相談対応を実施します。 その一環として毎日2回（11時・14時）、絵本や紙芝居の読み聞かせを実施し、様々な絵本との出会いの場とします。 また、ミナクサ☆ひろばでは、図書館とタイアップして、イベントとして司書による絵本や紙芝居の読み聞かせも実施します。	子育て相談センター (図書館)
まいにちビブリオバトル 【市民交流プラザ指定管理者の自主事業】	市民交流プラザでビブリオバトル（バトルとよばれる参加者が本の面白さを紹介し、最も読みたい本を投票で決めるゲーム）を実施し、本への興味・関心づくりや本を通じたコミュニケーションづくりを行います。	商工観光労政課 (※市民交流プラザ指定管理者の自主事業として実施)
講座および研修会の開催	絵本の読み聞かせ講座やブックトーク研修等の開催に際して、図書館司書の講師派遣を依頼し、司書の専門性や経験を活かした内容の充実を図ります。	幼稚園、保育所、こども園、各小中学校 庁内関係課 (図書館)



ミナクサ☆ひろば おはなし会



まいにちビブリオバトル

3. 学校や幼稚園等における子どもの読書活動の推進

【現状と課題】

乳幼児期

乳幼児期の子どもにとって、本に親しみ、楽しさを感じる経験は、その後の読書活動の基礎となります。

幼稚園、保育所（園）やこども園では、発達段階にあわせて子どもたちの興味関心を高めるため、絵本・紙芝居・童話等を使って、定期的に絵本の読み聞かせの時間を設けています。また、保護者や読書ボランティアと連携してお話会を実施したり、絵本の貸し出しを行ったりするなど、家族で絵本に親しむ機会を設けています。

あわせて、いくつかの園では図書館に出向き絵本に親しむ、移動図書館車を利用する等、図書館と連携・協力を図り絵本に親しむ環境づくりに努めています。しかし、絵本室を、PTA活動や会議室等と兼ねて利用しているところもあり、子どもたちが絵本等を見たいときに絵本室を活用できない現状が見られるため、読書環境の充実のためのより一層の工夫が必要です。

また、今後も教員や保育士等に対して、子どもの読書活動への理解の向上を図るとともに、保護者に対して読み聞かせや読書等の大切さや意義を広く啓発する必要があります。

小中学生期

学校は、子どもが生涯にわたって読書に親しむ習慣を育む上で大きな役割を担っています。

国語科をはじめとする教科や総合的な学習の時間等の調べ学習、本の読み聞かせ、「ビブリオバトル」¹¹、ブックトーク、読書感想文コンクール等、子どもたちは小・中学校で多様な読書体験を重ねています。

11 「ビブリオバトル」… 数人の競技者が、自分の好きな本を持ち寄り、その魅力を決められた時間で紹介し、聞き手が最も読みたい本を選ぶ、ゲーム形式の書評発表会。草津市では平成25（2013）年度より「みなくさまつり」において、立命館大学と連携して「くさつビブリオバトル」を実施している。

特に、小学生の段階で本に親しむ習慣を身につけることが、中学生以降の読書習慣や読書量に大きく影響すると言われていたことから、小学校からの継続した取組を大切にしています。

本市では、平成18（2006）年度から、計画的に小・中学校の学校図書館資料のデータベース化を進め、現在すべての小・中学校でパソコンによる蔵書管理や貸し出し業務を行っています。

これにより、学校図書館の環境や開館できる日時が安定し、充実した学校図書館運営が可能となりました。さらに、平成23（2011）年度から「読書大好き草津の子ども」推進事業の一環として、すべての小・中学校に司書（学校司書）を配置することで、各校の学校図書館来館者数が大幅に増加しました。また、教科や総合的な学習の時間等に、担任と司書教諭（学校司書）が連携して授業を進める学校が増加するなど、児童・生徒の読書の質・量の向上に、大きな成果をあげています。

また、読書活動の推進として図書館の団体貸出制度を活用し、テーマに合った図書を学級単位で借用し、読書習慣の定着に役だっている例も多くあります。読書環境としては、校内の廊下に図書コーナーを設けたり、学級文庫として数十冊を貸し出したりして、身近に図書を備えるなど、各校で工夫した様々な取組が実施されています。

さらに、市内の小中学校において、保護者や地域の人との連携が進み、学校図書館ボランティアの活動が読書活動の質的な充実を支えています。司書教諭¹²・学校司書¹³・学校図書館運営サポーター・ボランティアが連携し、子どもたちが訪れたい学校図書館をめざして、季節の変化や行事の内容を取り入れた読書コーナーを設ける他、学校図書館の壁面掲示、読み聞かせ等の活発な活動を行っています。

しかし、子どもの「読書離れ」やコミュニケーション不足による問題解決能力の低下が指摘されている中、子どもが本に親しめる環境整備をより一層進める必要があります。また、保護者世代への働きかけも必要です。

-
- 12 「司書教諭」 … 学校内の役割としてその職務を担当し、学校図書館資料の選択・収集・提供や子どもの読書活動に対する指導等を行う等、学校図書館の運営・活用について中心的な役割を担う教諭
- 13 「学校司書」 … 学校図書館の運営の改善及び向上を図り、児童又は生徒及び教員による学校図書館の利用の一層の促進に資するため、専ら学校図書館の職務に従事する職員（学校図書館法第6条）

さらに、各校の司書教諭が、学級担任等を兼務しており、学校司書と学校図書館運営や学習活動支援等について話し合う時間が十分に持てないなど、その連携に課題があります。今後さらに学校図書館が「読書センター」¹⁴や「学習・情報センター」¹⁵の機能を発揮させ、子どもが本に親しめるための環境整備を進める必要があります。

【施策の方向】

- 保護者が読み聞かせ等を通じて、子どもの豊かな感性や情操、思いやりの心を育むことができるよう、読み聞かせの機会の創出や啓発等を実施し、家庭での読書習慣が身に付くよう働きかけます。
- 子どもが、さまざまな人からの読み聞かせを通して、絵本や紙芝居等お話に親しむ機会を設けます。
- 図書館に出向き、おはなし会に参加したり絵本に親しんだり、子どもたちが本に親しめるよう、興味・関心や発達段階に応じた本の整備等の環境づくりに努めます。
- 学校図書館を活用する授業を工夫し、児童生徒に図書館および資料の利用方法を習得させることにより、主体的に学習を進める力を育成します。
- 地域や保護者・読書ボランティアとの連携を一層進め、書架等必要備品の整備、学校図書館資料の適切な選書、レイアウトの工夫等を行い、学校図書館の環境整備に努めます。
- 司書教諭をはじめとする学校図書館担当教員等を対象とした学校図書館に関わる研修会を実施し、専門性の向上と、学校司書や図書館との連携を図ります。

14 「読書センター」 … 日々の生活の中で児童生徒が自由に読書を楽しむ場であり、また、豊かな感性や情操を育む読書指導の場

15 「学習・情報センター」 … 児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援するとともに、必要な情報の収集・選択・活用できる場

【主な事業】

① 読書を通じたコミュニケーション機会の創出と読書習慣の形成

<乳幼児>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
読書活動の大切さの啓発	地域にある図書館やボランティア等の資源を活用し、質の高い読書環境を構築しながら、誕生日会や参観等保護者が集まる機会を通して、読み聞かせを行うなど、保護者への啓発を充実していきます。	幼児課
親子絵本貸し出し	図書室絵本の貸し出しに際して読書カードを作り、読み聞かせ時の感想や子どもの様子を保護者に記入してもらおう等、読書に関わって子どもの育ちを共有できるよう努めます。	幼児課
絵本等の読み聞かせやお話会の開催	保護者によるおはなし会、地域のボランティアによるおはなし会、園長によるストーリーテリング等、さまざまな人からの読み聞かせを通して、乳幼児がお話の世界を楽しみ、親しむことができる環境整備に努めます。	幼児課
PTA や保護者有志等との連携事業の実施	PTA 推薦図書の回覧や保護者有志等による読み聞かせ会を実施するなど、PTAや保護者との連携を推進します。	幼児課 (読書ボランティア)
絵本だよりの発行	絵本だよりの等を通して保護者に読書活動の様子等、子どもたちの読書に関する情報を提供することによって、大人も含めた家庭における読書習慣の形成を促進します。	幼児課
図書館の絵本の貸し出し体験	図書館と連携し、園児がお話や紙芝居の世界を楽しんだり、絵本の貸し出し体験などを通して、図書館を利用するときのマナーを学んだりする機会を推進します。	幼児課 (図書館)
移動図書館の利用	図書館と連携し、移動図書館に来ていただくことにより、普段より多くの絵本等に親しむことができる環境整備に努めます。	幼児課 (図書館)
園児の小学校の図書室探検	小学校等と連携をして、小学生による絵本の読み聞かせの実施や、小学校の図書館を探検することにより本への興味・関心を高める事業を実施します。	幼稚園 (小学校)



おはなしお母さん

<小学生以上>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
学校図書館を活用する授業や学校だより等に関する取組など	学校だより等を通して保護者に学校での読書活動の様子等、子どもたちの読書に関する情報を提供することによって、大人も含めた家庭における読書習慣の形成を促進します。	小中学校
「ビブリオバトル」や子ども同士で本を紹介し合う取組について	子どもの読書への意欲を高めるため、書評合戦「ビブリオバトル」を取り入れ、立命館大学と連携して、市内でビブリオバトル大会を開催します。また、学校の授業において、子ども同士で本を紹介し合う取組なども実施します。	小中学校 (学校政策推進課)
”学習・情報センター”としての学校図書館の活用	「図書館を使った調べる学習コンクール」の地域コンクールを導入し、身近なことに課題を見つけて情報を収集し、資料を読み解く力や複数の情報を目的に応じて活用する力を育成するとともに、それらをレポートにまとめ、伝えるための表現を工夫する力を育成します。	学校政策推進課
「子ども読書の日」 「校内読書週間」の取組	学級ごとに読んだ冊数を調査し、読んだ冊数ごとに木に葉を付ける「読書の木」の取組や、図書委員会の企画する「読書祭り」、図書室のオリエンテーションや「読書貯金通帳」等の取組を引き続き推進します。 また、啓発ポスターの掲示や校内放送を利用した図書委員のおすすめの本の紹介等を行い生徒の主体的な取組を推進します。	小中学校
園児の小学校の図書室探検	幼稚園等と連携して、小学生による絵本の読み聞かせの実施や、小学校の図書室を探検することにより本への興味関心を高める事業を実施します。	幼児課 (小学校)



くさつビブリオバトル



図書館を使った調べる学習

② 施設、設備および蔵書の充実と環境整備の推進

<乳幼児>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
幼稚園・幼稚園型認定こども園、保育所・幼保連携型認定こども園 図書館整備	幼稚園・幼稚園型認定こども園、保育所(園)・幼保連携型認定こども園における図書の充実を図ります。また、おすすめの絵本の紹介文を提示し、園児やその保護者が絵本を読んでもみたくなるような工夫をすることにより、人生の初期である乳幼児期に絵本に触れる機会を増やし、絵本やお話の楽しさを感じることができる読書環境を整えることで、子どもたちの育ちを支え、豊かな感性を培います。	幼児課

<小中学生>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
小中学校教材設備の充実	義務教育教材備品等の整備充実により、小中学校の教育環境を向上させます。	教育総務課
「読書センター」「学習・情報センター」としての学校図書館の活用	学校図書館が「読書センター」「学習・情報センター」としての機能を十分に発揮できるよう、学校司書によるレファレンスや、図書室のレイアウトの工夫、書架等必要備品の整備や、学校図書館資料の適切な選書を行う等、保護者・地域ボランティアと連携しながら、さらに使いやすい環境整備に努めます。	学校政策推進課
学校図書館の充実	学校司書、学校図書館運営サポーターを各校に配置し、司書教諭をはじめとした教員、学校図書館ボランティア等学校図書館に関わる関係者が連携をすることで、学校図書館が毎日開館されるよう努めます。	学校政策推進課



学校図書館の様子

③ 子どもの読書活動に関わる人材の育成

<小中学生>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
学校図書館運営部会の実施	学校図書館運営部会を各校で定期的を実施し、学校図書館関係者の連携を密に行います。	学校政策推進課
学校図書館ボランティア交流会 (再掲)	学校図書館や読書活動の運営にボランティア等がかかわっている方々を対象として、各学期に1回、年3回の交流会を実施します。 日頃の活動に役立つスキルアップ講座を図書館と協力して計画したり、他の校舎所で活動する方々と意見交流の場を設定したりするなどして、子どもの読書活動の推進に携わる方々の資質の向上と連携を図ります。	学校政策推進課 (図書館) (学校図書館ボランティア)



学校図書館ボランティアによる絵本の読み聞かせ

4. 多様な子どもたちに配慮した読書活動の推進

【現状と課題】

読書習慣を身に付け、たくさんの本に親しむことは、多様な子どもたちが互いに理解し合い、思いやりの心を育むことに役立ちます。また、障害のある子どもや、外国につながる子どもとコミュニケーションを図ったり、成長を促したりするために有効な手段の一つです。

また、近年、ひとり親家庭の増加等により、子どもと過ごす時間が限られ、家庭での読み聞かせの時間や、図書館等で実施する読書活動推進事業に参加する時間が確保できない家庭も増加しています。

このことから、子どもの個性や子どもを取り巻く環境など一人ひとりに合わせた、きめ細かな対応が大切です。

学校では、児童生徒の状態や発達段階、関心に合わせて創意工夫を行っています。

たとえば、点字本や大型絵本、布絵本やパネルシアター等の活用や、国語科等の学習の一部を活用するなど、本に親しむ時間を意図的に取り入れています。

また、子どもたちにとって本が身近なものとなるよう、幅広い種類の図書を充実させる他、絵本室以外の教室、廊下等に読書コーナーを設ける等、読書環境向上のための工夫をしています。

一方で、個々の希望に応じた本の選書や、本に関心を向けさせることが難しい現実があります。今後、図書館や司書教諭、学校司書や各関係課との連携をより強化し、読書環境の充実を進める必要があります。

【施策の方向】

- 子どもの能力や可能性を伸ばすための教育や学習支援を、子どもの置かれた状況に応じて、その意見を尊重しながら推進します。
- 多様な個性に応じた読書環境を提供できるよう資料の収集に努めます。
- 子ども食堂への団体セット貸出サービスや子どもの居場所づくり事業との連携等を行い、図書館を利用しづらい子どもたちに向けた読書支援活動を実施します。

【主な事業】

① 特別な配慮が必要となる児童にかかる読書活動推進

<全般>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
図書館における障害者サービス	障害のある子どもたちへのサービスとして、点字本や録音図書（DAISY）、拡大写本等の作成に係るボランティア団体の活動支援や、資料収集・提供による子どもの読書活動の推進につなげます。	図書館
「多文化共生の視点」に立った、お話や絵本、図書の充実	日本語だけでなく、国際理解の視点も含め、図書資料を収集し、それぞれの子どものに合わせた読み聞かせを行うなど、全ての子どもが本に親しみやすい読書環境の提供に努めます。特に、日本語の読み書きが不自由な外国につながる児童に対する日本語指導に活用できる図書資料の充実に努めます。	幼児課 (保育所・幼稚園・こども園) 小学校 中学校 図書館

② 図書館等への来館困難者にかかる読書活動推進

<全般>

事業名	事業概要	担当 (連携・協力)
発達支援センター湖の子園における読書活動	発達支援センター湖の子園で絵本や大型絵本・紙芝居等の読み聞かせを行い、親子共に絵本の楽しさを体験し、絵本・おはなしへの興味関心につなげます。	発達支援センター
子ども食堂への団体セット貸出サービス	市内の子ども食堂に、各食堂の特徴に合わせて、司書が選書した団体セットの貸出を行うことで、子どもたちの読書環境の充実と読書活動支援を行います。	図書館
子どもの居場所づくり事業との連携	子ども家庭課と連携し、参加している中学生に絵本の読み聞かせや本の紹介を行います。	図書館 (子ども家庭課) (生活支援課)



子ども食堂への団体セット貸出サービス